

令和6年度 第8回豊能町教育委員会会議（11月定例会）会議録

日 時： 令和6年11月18日（月） 午後2時00分開会

場 所： 豊能町役場 2階 大会議室

出席者：	教育長	板倉 忠
	教育委員	宮崎 純光
	教育委員	小松 郁夫
	教育委員	増田 ゆか
事務局：	こども未来部長	仙波 英太郎
	教育総務課長	池田 拓也
	義務教育課課長補佐	大石 登紀子
	こども育成課長	高田 浩史
	生涯学習課長	中谷 匠
	教育総務課主任	横山 悟士

傍聴者： 1名

会議次第

○審議事項

なし

○各課・室からの報告

## 【教育長】

それでは時間になりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は馬渡委員と坂口委員がご欠席ということで、3名の出席となります。過半数に達しておりますので、ただいまから令和6年度第8回豊能町教育委員会会議11月定例会を開会いたします。会議録署名人につきましては宮崎職務代理にお願いいたします。

それでは議題に入りますが、本日は審議事項がございません。前回会議以降の各課の報告を順次事務局よりお願いいたしますが、まず初めに私の方から先週末16日（土）、小中一貫教育小規模校全国サミットというものに参加させていただきましたのでご報告いたします。

豊能町は2小2中に向けて動いており、小規模校を選択した形になりますのでそれについての教育委員の皆様のご意見等交流させてもらえたらと思っております。

京都市立大原小中学校という、小中一貫校がありますが、従来からの1小1中で隣同士であったところを1つの学校にしたそうです。京都市にとっては特異な学校かと思うのですが、そちらの方が旗振りをされておられて、小中一貫教育の全国規模の会はあるのですが、それとは別に小規模校という集まりを全国で6校の連絡協議会を作られて研究されており、今回、その会議に参加させていただきました。

新潟から広島の中で6校の小規模校で構成されている研究会です。その中のご報告なのですが、この学校は全校児童生徒が101人おられて、一時減少が続いていたそうですが、最近では転入が増え、増加傾向にあるという学校だそうです。移住者が増えて、全校生の中で移住者が大きく数を占めているという学校です。京都大原学院になって16年で、その間に学校の特色で人を呼び集められたのかなと思っております。

特に、学校の中での特色として、総合と道徳と特別活動の一つにして地域のことを学ぶ地域学習と栽培活動である農園活動を中心とした「大人になる科」というものを作られているそうです。その中で地域のこといっぱい学んでおられる学校でした。そのまとめを今回の全体会の中で9年生が発表してくれたのですが、大原のことを自分たちで考えて提言をするというものでした。

八朔踊りというのを地域でやられているそうですが、自分で調べ、八朔踊りを自分たちも引き継いでいかないとだめだと、地域で残していくということを提言していく。それを残していくためにはどうしたらいいかのアンケートをとると、参加したらお土産がある等の回答が得られたそうです。とても楽しい提言をしてくれておりました。

この学校の目標は、豊能町が誇りを持ってということと一緒に、大原のゆとりある心を自信を持って伝えられる子に、いわゆる発信できる子どもになりたいということをおられるまとめなのだなど、とてもよくわかりました。学校がそういう目標に向かって全員で一丸となって進んでおられるということがとてもわかり、良かったなと思っております。

先ほどの6校でそういう組織を作っておられ、他の学校も皆さん発表されておりました。ポスターセッションでそれぞれ後ろにポスターを貼って、私たちに説明していただいたのですけれど、それぞれ小中一貫校として成り立ちが違うので面白かったです。色々な事情があり、様々なことがあって小中一貫校を作っておられるというところでした。

今日、ご意見をお伺いしたいと思っていることは、小規模校が子どもの数が減ることで活性化しないと言われていますが、そうではなく小規模校のデメリットをメリットにする教育をしていくのが大事です。本町ではまだ1年半先ですが、そういう学校を作っていくということで、教育委員の皆さんに、小規模校のデメリットをメリットにするようなこととは、本町ではどのようなことが考えられるのか。またそれについてどう思っておられるか。それとも、大人数で大きな集団で学習することが大事だということで、それに向かって本町の教育が行くのか。

小規模校のデメリットをデメリットでないような教育をどうすればできるのか。教育委員の皆さんにご意見いただいて、交流できればと思っています。事務局も聞いていますので伝わっていくと思います。いかがでしょうか。

## 【委員】

今までのような伝統的な学校の教育のやり方では、少人数だと学校の目的が果たせないのではないかと。例えば、人数が少なくなると子どもの関係が固定化して、切磋琢磨するということが弱くなるのではないかと。教員側は小規模だと教員の数が減ります。学校というのは大きかろうと小さかろうとしなければならない仕事がかかり共通しています。小規模校になると先生方が大変になるのではないかと、学力がやはり切磋琢磨できないと伸びないのではないかとというようなことを心配があります。

学校教育目標の中に「自信を持って伝えられる」というものがあります。「自信を持って」という言葉が入っているのは、小規模校になると、子どもは大人しくなる。京都では、さらに田舎だからといって、街中と比べて、自分たちの地元は田舎であまり面白いことがないみたいなことを言っている子どもたちが増えてきているということ、当時の校長先生たちがおっしゃっていました。

大勢の中で切磋琢磨できれば競争に勝ち残っていき、自己肯定感や自分に自信がある子どもに育つのですが、10人にも満たないようなクラスばかりになってくると、中学校を卒業し高校になると街中に出るのですが、それまでの卒業生たちは一定、言いたいことが言えない子どもが多くなってきているという心配が当時の先生たちにはありました。逆にいうと、授業の中で自信をもってかつ自分の考えをはっきりと伝えられる子どもになってほしいということで、いま象徴的な科目として「大原提言」というようなことを作りました。

これは豊能町とも共通しますけれど、1つのねらいは地元について学ぶということです。地元について学ぶためには地元を知らなければなりません。とことん、地域学習みたいなこともやりました。これはどこの地域であれ、学ぶべき財産がたくさんあるのですが、社会科では典型的で、行ったことのない北海道や九州の言葉を全国まんべんなく学ぶようになっています。私は関西の学校であれば、すべてを平均的に学ぶのではなく、関西を中心に学ぶための時間を2倍くらいに増やすくらいのカリキュラムの組み替えをしてもいいと思います。

もう一つ大事なことは発表ではなく提言なのです。今年もそうでしたけど、最終的には自分で勉強したことを生かして何か実際に提言したり実行したりしていく。大原の観光案内図では、若い人はあまり面白くなくさそうなので、若い人向けの観光マップを作ろうという提言をした生徒もいました。具体的に、スマホで表示されどこにいても見られるようにしようとか、大原は依然としてお年寄りが多いのですが、中学生たちの希望は、もっと若い人たちに大原へ来てほしいということで、若い人たちが得意なスマホとかSNSとかを使ったものもありました。去年であればある生徒は、民話を小説仕立てにして若い人たちにも興味を持ってもらえるようにしたものもありました。

今回は今紹介がありましたように、大原に長い間続いている八朔踊りという豊作を願う踊りに道念音頭という歌もついています。私も最初に聞いた時に辛気臭く、暗くて音程が中々取りにくいようなものを、今年発表した生徒は歌詞を自分なりに今風の言葉に書き直して、歌詞の意味しっかり調べていました。そうすることによって、豊作を願うと同時に、色々な意味合いが歌詞の中に含まれていることを発見しました。

とにかく行動に移すこと。探求的な学びが学校で重視されていますけれど、まさに探求的な学びは調べて分かって終わりということだけではなく、最後は発表する。これは豊能町の子どもたちにも十分参考になるような話ですし、もうすでに「とよの未来科」のなかでやられていることだと思います。これから小中高、大学あるいは社会に出てからもむしろ学んでいくような形の若者を作っていくためには豊能町でもぜひ、共通の問題意識として持っていただく必要があります。これから新しいタイプの学校ができてきますので、今まで以上に探求的な学びを、豊能の地に根差したものを先生たちが開発していければいいと思います。

大原も色々なことをしてきましたけれど、既に豊能町でもいっぱい色々なことをしていらっしゃるの、先生自身がまず自信を持ってやってくさるといいなと思います。それを子どもたちにもやって、豊能で小中学校を経て、高等学校で他所の市町から来た子らと一緒にあったときに、先進的なことを豊能の学校でも学んでいるということ、ちゃんと伝えて、自分のものにしていける子どもになっていくと、高校、大学、社会あるいは国際競争の中でも日本人の若者が世界の中でリーダーの1人として活躍できるということだと思います。

**【教育長】**

いま言われました通り、本町で進めている「とよの未来科」、それからキャリア教育、まさにそれを一つにして、小中一貫校の柱にされている。とても共通点を感じました。

**【委員】**

大原学院には何年か前に行かせていただきまして、大原の地域は本当に豊能町によく似た場所でございます。山があり田んぼがあり畑がある素晴らしいところであります。委員からご説明いただきましたように、生徒や先生方が皆ほんわかして楽しい感じが見て取れました。

**【教育長】**

京都に三千院というお寺がありまして、お寺の住職の方が研究発表会に来られていました。本当に何かよく似た環境で、教育委員ではないですが地域のご住職として学校に関わっていたいただき、教育に関わっていただいととても良いなと思いました。

委員にお伺いしますが、本町がこれから2小2中でやっていく中でご助言やお考えはありますでしょうか。

**【委員】**

本日の午前中に光風台小学校と東ときわ台小学校の授業を見させていただきました。本当に感心したことの一つに、やはり適正規模というのはあると思いますが、今回見せていただいた授業は今年から来られた先生で、吹田と全然違うという話をされていまして。20人以下くらいで、色々子どものことが見られて本当に良いと言っていました。20人以下にさせていただきたいとその先生はおっしゃっていましたが、私も本当に小学校の間は20人くらいが適正と思っているところなので、小規模であることにデメリットがあると本当にそれは言われてきたところではありますが、むしろメリットだと私は思っていました。

もう一つ良かったのが、元々豊能町の方が町外へ出られていたのですが、体育の幼小連携の講師として来られていました。やはりプロで、その方がすごく上手にされていて、幼稚園の先生も小学校の先生も学ぶことがたくさんあると思いました。その方に話を聞いていたときに、豊能町を卒業した子どもがここに帰ってきて、何らかの働く機会を得られてすごく喜んでおられました。豊能町へ帰ってきて活躍できる機会があることはすごく良いことだと思います。

以前、3小1中である岬町の教育委員会の方と話をしているときに、岬町では、学校の先生は岬町出身の人になってもらいたいということをおっしゃっていました。大学の時から岬町出身の子どもを大事にして、ぜひうちでなってくれという感じで、積極的に戻ってきてもらえるよう働きかけているそうです。実際に岬町出身の子どもが岬町の先生になってくれるよう、未来の子どもを育てていくことがベストだと思っているとお話をされていて、そんなことも先ほどの先生方のお話の中の、自信をもって伝えられるという話と繋がっているのかなと思いました。

先ほど移住組が増えているという話をされていて、今は本当にリモート勤務が普通になってきて移住しやすくなっています。適正規模という意味では少なすぎても駄目なので、そういう意味ではたくさん若い人に来てもらうということで豊能の子が帰ってきて同じ町で働けることが良いなと思って聞いておりました。

**【教育長】**

今、もしかしたら東能勢小学校が6年後に4人の学級ができるかもしれない状況なのです。

**【委員】**

移住者を増やしていただきたいと思います。

**【教育長】**

大原小中学校の授業を見させていただいて、一番面白かったのが9年生の理科の授業でした。内容は、酸性やアルカリ性を調べる授業でした。試験紙であるとか、紫キャベツで調べる授業があるのですが、この授業では赤紫蘇を使っていました。赤紫蘇というのは、大原の名物だそうです。先生は赤紫蘇が試薬に使えるということで、それを試薬液にして授業をしていました。

そのときの授業は4人の学年でしたが、1人がお休みで3人でした。テーブルが6つくらいありますが、1つのテーブルに9年生が1人ずつ座っていました。なので、実験を全て自分ですることになります。これを嫌がるわけではなく、楽しそうに1人でやっていました。結果が出ると、なぜその結果になったのかを一人ひとりに聞いていくそうです。子どもはタブレットを出して、なぜそうなったのか、外の泥水が酸性かアルカリ性かを調べ、結果をホワイトボードに書かせる。この一連の流れを全部1人でさせる。その後、他の生徒が自分の調べた結果を追加する形で発表をする。次に、また別の生徒が前に出てきて、調べ切れていなかった部分を発表する。ということを繰り返していっていました。調べる、結果、なぜそうなる、発表する、意見交流するという流れで1時間が終わっていく。この授業は3人だからこそできるのだなと思いました。

もし20人のクラスだったら、班の中で相談して班で発表するだけだと思います。この授業のやり方は小規模校のデメリットをメリットにしていると思いました。赤紫蘇を教材にすることで地域を大事にしていく。こういう授業ができると、子どもたちは大原というところに誇りを持つことができ、人とのコミュニケーションをしっかりとれる子に育つと思います。見学に来ていて教室の周りに大人がいても臆することなく説明できていました。大原では16年間していて、とてもモデルになるなと思いました。4人でも、先生の授業の持っていく方や授業の作り方、考え方のなだと思いました。これは40人だったらできないと思います。

先ほど委員がおっしゃっていた、言いたいことが言えない子どもについて、豊能町では高1ギャップと呼んでいます。豊能町の中で育っていったときに、この穏やかなところから高校に行くとギャップがあることを聞きます。このことについて、委員いかがでしょうか。

#### 【委員】

今の理科の話もそうですが、最初は心配していて、実際そうだったらいいです。しかし、子どもが家に帰って言っているらしいですが、高校に進学してみて、大規模の中学校から来た子たちはきっと誰かがやるだろうと思ってやらないそうです。自分も最初はどうかと思ったけれど、自分がしないと進まないからと手を挙げてするのですが、周りの人はできないそうです。高校に行ってみて初めて、小規模校で色々なことを自分でやらされていたことが、自信を持ってやれるようになっていたと気づいたそうです。

ここが教育の難しいところで、今やっていることが本人自身あまりわかっていなくても、小規模の中でとにかく自分がやらないとクラスが動かない、授業が進まないことを体験して、自然に高校・大学へ行ったとき、あるいは社会に出た時に当たり前に小中時代にやっていたことを当たり前にやればよいということに後で気が付く。

少人数であることのデメリットをメリットに変える一つの方法として、小中時代に色々なことを子どもたちが主体的に学ぶという体制をとることによって自信をもってできるようになっていく。自分たちが主体となって学ぶという体制ができるようになってくる。そうすれば10人や20人しかいなくても、高校へ行ったときに他の中学校から来た人と一緒になるけれども全然心配ないよということを伝えながら、9年間の教育を豊能町でやれば、自己肯定感をしっかり持った子どもに育てられるのではないかと思います。

先生方や子ども自身が小規模であるということマイナス的に受け止めてしまうと駄目ですが、自分たちの発表も、小規模の学校であれば嫌でも発表せざるを得ません。今日の訪問では20人くらいで少し多いくらいでしたが、発表する機会は45分の中で1回くらいは発言できるかと思います。今までだとバラバラでなわとびをしていたのを、前半で見た幼稚園と小学校1年生とが一緒になってする。こういう授業の工夫をしていけば、5人や10人になったとしても、豊能では学力を伸ばせる子どもたちを育てられるのではないかと思います。伸びてくれば活気が出てきて、子どもたちが自信をもってくる。この町には十分チャンスがあるのだと思います。

私は東と西とで特色のある地域を強みにしていきたいと思います。同じ町の中に少し景色の違う場所があるというのは、面白いというか、同じ町内でお互いに学び合えるということ、ぜひそれぞれの東西の良さをいかして学び合う学校づくりをしていけば、決してバランスが悪いというのはマイナスにはならない、むしろプラスに活用できると思います。

### 【教育長】

高1ギャップというのは、揉まれていないという話ではなく、自己肯定感が育っているか育っていないかということでしょうか。

### 【委員】

私みたいにあちこち移り住んだ人間からするとデメリットはいっぱいあるのですが、メリットの一つは、ずっと住んでいる人にとっては生まれてずっとその地域にいるのだけれど、人間はそこしか知らないとその良さに中々気づかないケースもあるのかと思います。こういう不便さはあるけれど、こういう良さがあるのだと。そういったことを探してこの地域の良さとは何だろうかと、ここに住むからにはそれに気づくということ、豊能の地域全体で小さいときから学ぶようなチャンスは私は作ってあげられたら良いのではないかと思います。

私から見ると、学ぶべき宝や財産がここにいっぱいあると思います。まだまだ豊能の学校の中で子どもたちはしっかり学べていないのではないかとこの部分が正直いくつかあります。それは「とよの未来科」を中心として、色々な形で先生たちが教えていってほしいです。

これだけ色々な自然もあり歴史もあるところで、いっぱい魅力があって子どもたちにも面白いことがいっぱいあるよと、授業の中で上手く生かしてないのではないかと思います。そういう面で、もしかしたら子ども以上に大人たち自身が或いは教師自身がこの地域のふるさと学習をちゃんと学ぶ必要があると思います。

大原もそうです。三千院学習という提案をしたのは三千院という、多くの日本人の観光客や旅行に興味がある人は行ったことがある場所ですが、15年くらい前に聞いてみたときに、三千院に行ったことのある子どもが少ないのです。それ以外の有名な綺麗な景色のいい場所とかもあるのですがやはり知らないし、行っていません。それおかしいだろうと私は思って、何とか三千院さんと協力をして、三千院でこの大原提言の発表もしています。

豊能町も負けず劣らずいっぱいお宝があると思うので、それを教材に先生たちができるかどうかは課題ではないかと思います。

### 【教育長】

PTAが作成している冊子をいただいたのですが、ここに書かれているのは地域の応援団によって書かれたものだと思います。色々な活動をされている応援団の担当の地域の方が全部載っています。こういった地域に学校があるということで地域の方たちが応援しているような学校をめざしていけたらと思っています。

### 【委員】

ここまでなるのに決して順調ではなかったのです。先生方の中には、なぜ小中一貫にしなければならないのかとか、あるときは、地域と一緒にしていくのは面倒だから、私は地域の人たちには学校へ来ないで欲しいみたいなことをはっきり言った校長がいました。このときはとても大変でした。色々考えて、教育委員会とも相談をし、その方については人事上の再検討を教育委員会にはしてもらいました。

地域を使えば、豊能の人たちもそうですが子どもたちのためにはみんな一肌脱ごうかという人たちがいっぱいいらっしゃると思います。色々な人材が地域にはいますので、使わない手はありません。

校長が変わり就任されたら、まずは校長を一生懸命トレーニングするのです。校長もそのうち、空いている時間に自転車で地域を回り、地域の人たちと色々関わるようになります。学校運営協議会の会長さんは毎日のように学校に行ったりするそうです。

コミュニティスクールのことを日本語訳で「地域立学校」と訳しますが、地域住民がオーナーだそうです。だから公立学校という言い方も良くないのではないかと。豊能地区もそうですが、最初に学校を作ったのは地域の人たちが本当に色々な形で労力とお金も含めて出して下さったからです。今でもPTAを中心として、地域の保護者の人たちが色々なことをやってもらっていますし、行事とかお祭りとかにも関わっていると思います。公立の小中の義務教育学校は、別に楯突く必要はないですが、もう少し国や府から離れていく。豊能町立という意味は大事にした方がいい。豊能の小中学校は豊能町が設置者なのだというようなことを、しっかりとかみ

しめる必要があると思います。もちろん国や大阪府も尊重するべきですが、義務教育の学校は、基礎自治体である市町村に責任があります。そこで働く先生たちが身分上は、豊能町立の学校に来たら豊能町の公務員となりますので、これは忘れてほしくないなと思います。

#### 【教育長】

大阪府では市や町の中が一つの教員の異動の単位となっていますので、豊能町の中で異動が多いです。今回東西に同じような学校ができ、この辺り異動の対象が同じような小中一貫校なのでそれは良いかと思います。ここで1校にしていたら異動で他市町村へ行くと全然違う校長が来る可能性があります。でも2校あるので異動があったとしても、その中での異動ができてくるので、そこは豊能町の強みになるかもしれません。

#### 【委員】

15歳までは、やはりこの町がみんなで責任を持って後継者を育てていかないといけない。そうしないとこの町の存続、発展に良くないわけで、町民全体が15歳まで或いは18歳の成人まで、町民自身が主体になって自分たちの後継者をどう育てればいいのかについてアイデアを出し、協力できることは協力していくのが小中一貫校であり、学校運営協議会制度の在り方だと思います。

#### 【教育長】

学校運営協議会も開校準備委員会で協力して動いてくれています。ここはずっと継続できるように学校もしていかないと、せっかく作った義務教育学校がそういったコミュニティスクールになれなくては駄目ですね。

#### 【委員】

みんな素晴らしい人々がこの町に住んでいるのですから、学校はみんなが通った場所だからよくわかっていると思います。楽しそうなのですが中々踏み込めない、ということがこれまでの公立学校のあり方だったと思いますが、安全を確保しつつ、安全を確保しつつ、みなさん学校の周りを歩いたりするわけなので、その学校が楽しそうに子どもたちが活動していたり楽しそうな歌声が聞こえてきたら大人たちもハッピーになるかと思います。

#### 【委員】

今のお話をお聞きしていて、豊能に来てくれている先生が豊能町を好きになってもらうことがすごく大事だと思いました。昔、私が豊能町に来た時に、吉川に行っているときは先輩の先生が良いお花とお茶の先生がいると紹介され、ときわ台まで毎週行っていました。そういった地域の方が色々といらっしゃるところに先生方が繋がれるような、先輩に教えてもらって行っていました。それで、豊能には色々な人がいるという話を聞いて、その人たちにゲストティーチャーに来てもらえたりするような、そういうサイクルみたいなものがあって、この前も退職した先生とお話すると、今でもまだお茶の教室に行っているそうです。そんなふうには、豊能町のことを好きに思ってもらえる先生が若い方に増えるようにするような地域を巻き込んでいくために色々なつながりができるようなアクションを管理職はしないと駄目だったなと思いました。

#### 【委員】

豊能町出身の人でも自分の住んでいる地域くらいしか知らず、豊能町全体を多分知らないで教員になっていることあると思います。本当は初任者研修の行事の一つくらいに入れていただけたらと思います。

#### 【委員】

豊能町にも、豊能全体を車で回って下さって、自分が新任のときに色々回っていただいたのですが、その時だけでそれが終わってしまい中々それが自分の仕事に結びついていかなかったなと思いました。

お茶やお花はとても楽しく、東ときわ台のプロジェクトマップとか、地域のことでないですが、ああいったことをする住民の方がいて、みんなで一緒になって大人も子どももやるみたいな取り組みが東ときわ台でされていたときもあり、面白いなと思いました。確かクーラーがつかないからクラウドファンディングをするというような話もありました。そういった地域の人と先生も子どもも一緒になってやっていくということが、委員がおっしゃっていた地域立学校なのだなと思って聞いていました。

#### 【教育長】

ありがとうございました。1年後の開校に向けてやはり今言ったような教員の研修も変えていかないとダメだということですね。教科学習だけでなく地域を学ぶということ、「とよの未来科」は豊能町の教員でしかできないことなので、これをきちっと教員研修に入れていかないと豊能町の教員は育ちません。豊能町のことを好きな教員を育成していくということを我々の目標としていきたいと思います。

これから大事なのは学校の先生の研修だと思っています。土曜日に行っていた中でもこれを現場の先生たちが見てくれたらこの雰囲気も分かってもらえるなど、行った者からの感想もありました。あの空気感を感じていただいたら先生もやる気が出てくると思います。教育委員会も後押しをしていく必要があると思いました。

そうしましたら、各課の報告をお願いいたします。

#### 【教育総務課長】

- ・令和7年度学校事務職員採用試験について
- ・教職員に係る時間外勤務手当について

#### 【教育長】

仕事量を減らさないと働き方改革は実現しません。今の財政状況では職員が増えるということはありませんので、職員数は減るけれど仕事量が増えるということにならないよう、上手に考えていく必要があるかと思います。事務局が頑張っていてやってくれているから学校がもっています。ご苦労様でございます。各課の報告を続けてお願いします。

#### 【生涯学習課長】

- ・イベント関係について

#### 【教育長】

他いかがでしょうか。では本日の議事はすべて終了となります。次回は12月25日（水）14時からで予定をしております。よろしくをお願いいたします。1月の会議ですが、20日（月）で予定をしておりますのでよろしくをお願いいたします。以上をもちまして、令和6年度第8回豊能町教育委員会会議11月定例会を閉会いたします。みなさん、お疲れ様でした。

閉会 午後3時5分